

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル（科目名） 幼児理解		授業の種類 （ 講義・ <u>演習</u> ・ 実習 ）		授業担当者 小林 智子（実務経験者）	
授業の回数 15 回	時間数（単位数） 30 時間（1 単位）	配当学年・時期 前期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 幼児一人ひとりの発達の特性に応じ発達の課題に即した援助ができるようになる。 [授業全体の内容の概要] 幼児の行動や内面の理解、発達を適切に把握できるよう、ビデオ等を利用し保育のあり方を学ぶ。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] 自分自身の保育実践を見つめ直し、保育現場で実践できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 保育方法の基本と保育方法の原理 2. 幼児理解と保育方法 3. 遊びと保育 4. 環境と保育 5. 集団と保育 6. 保育集団の一日 7. 入園当初の保育 8. 行事と保育 9. 集団での育ちと個性 10. 保護者と連携した保育 11. 地域と連携した保育 12. 障がいと保育 13. 異文化と保育 14. まとめ 15. 試験					
[使用テキスト・参考文献] ・必要に応じて資料プリントを配布する。			[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験の修得状況が到達目標の6割以上と認められる場合		

授 業 概 要

(幼児教育専攻科)

授業のタイトル（科目名） 幼児と言葉		授業の種類 （ 講義・ <u>演習</u> ・ 実習 ）		授業担当者 長谷川 智子（実務経験者）	
授業の回数 15 回	時間数（単位数） 30 時間（1 単位）	配当学年・時期 幼児教育専攻科・前期		必修・選択 必修	
〔授業の目的・ねらい〕 幼児教育に携る者として、幼児が環境や他者とのかかわりを通して発達する「言葉」の特性と「言葉」における指導の重要性がわかる。 〔授業全体の内容の概要〕 幼児が言葉を獲得する過程を理解し、言葉の発達の背景にある保育内容を考えながら、保育のあり方や援助の方法を学習する。 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 言葉の基礎が育まれる乳幼児期において、保育者の役割の重要性を学んだ上で、自分自身の言葉のありようを見つめ直し、保育現場で実践できる。					
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数 1. 人の生涯と言葉の関わり 2. 言葉を育む環境とは何か 3. 乳幼児の言葉の発達①（前言語的コミュニケーション） 4. 乳幼児の言葉の発達②（一語文の成立） 5. 乳幼児の言葉の発達③（二語文の獲得から多語文） 6. 乳幼児の言葉の発達④（会話の発達と思考の道具としての言葉） 7. 領域「言葉」について 8. 「聞く」を育てる 9. 「伝え合う」を育てる 10. 「思考を言葉で表現する」を育てる 11. 言葉を育む保育者として① 12. 言葉を育む保育者として② 13. 言葉の発達の遅れについて 14. 保育者の言葉 15. 試験					
〔使用テキスト・参考文献〕 ・『子どもの育ちと「ことば』』（保育出版社） ・必要に応じて資料プリントを配布する。			〔単位認定の方法及び基準〕 ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験の修得状況が到達目標の6割以上と認められる場合		

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業のタイトル（科目名） 保育実践研究		授業の種類 （ 講義・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者 瀧澤 延子（実務経験者）
授業の回数 15 回	時間数（単位数） 30 時間（ 1 単位）	配当学年・時期 専攻科・後期	必修・選択 必修	
〔授業の目的・ねらい〕 保育現場において、保育者同士の協働が円滑に行えるよう、実践を通して習得できるようにすることを目的とする。 他者の意見を取り入れながらも自己の意見を積極的に出すことができる。 〔授業全体の内容の概要〕 グループに分かれ、指定された技法及び期限内で折り紙壁画製作を行う。 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 1、 他者の意見を取り入れながらも自己の意見を積極的に出すことができる。 2、 創意工夫しながら、専門性を十分に発揮して取り組むことができる。 3、 設定された枠の中で、積極的且つ計画的に取り組むことができる。 4、 向上心を持ち、他者と強調しながら取り組むことができる。				
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数 1、 作品の内容について話し合い、グループ分けをして構想を検討する。 2、 製作内容の分担及び作業をそれぞれで進めていく。 3、 4 5、 6、 7、 8、 9、 内容について評価しながら進めていく。 10、 11、 12、 13、 14、 15、まとめ				
〔テキスト・参考文献〕 ・適宜プリントを配布する ・保育雑誌等を参考にする		〔単位認定の方法及び基準〕 ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・提出物課題の修得状況と課題に取り組む姿勢が到達目標の6割以上と認められる場合		

授 業 概 要

(幼児教育専攻科)

授業のタイトル（科目名） 保育の計画		授業の種類 （ 講義・ <u>演習</u> ・ 実習 ）		授業担当者 長谷川 智子（実務経験者）	
授業の回数 15 回	時間数（単位数） 30 時間（1 単位）	配当学年・時期 幼児教育専攻科・前期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 保育の省察から子ども理解と保育の見直しのついて学び一人ひとりに即した保育の実践能力を培う。 [授業全体の内容の概要] 計画・実践・反省・計画の改善の関連について事例を理解しながら学ぶ。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ・乳幼児保育における長期的見通しができる。 ・保育担当者の共通認識の重要性が理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 保育における計画の重要性 2. 幼児期の学びの特質 3. 保育の計画と子どもの経験 4. 編成の要件と関連 5. 教育課程・保育課程の編成内容 6. 月案・週案・日案の目的と内容 7. 月案・週案・日案の事例 8. 月案・週案・日案の事例 9. 指導計画作成と実践の配慮点 10. 記録の重要性 11. 保育担当者の共通認識 12. 保育の反省の観点 13. 一人ひとりに即した保育 14. まとめ 15. 試験					
[使用テキスト・参考文献] ・必要に応じて資料プリントを配布する。			[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験の修得状況が到達目標の6割以上と認められる場合		

授 業 概 要

(幼児教育専攻科)

授業のタイトル（科目名） 教育相談		授業の種類 （ 講義・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者 田村 人志	
授業の回数 15 回	時間数（単位数） 30 時間（1 単位）	配当学年・時期 幼児教育専攻科・前期		必修・選択 必修	
〔授業の目的・ねらい〕 教育現場において適切にカウンセリングが行えるように演習を中心に展開して、教育相談の理論、技法、態度などを学ぶことを目的とし、実践力を養うことをねらいとする。 〔授業全体の内容の概要〕 教育相談に対する理論と技法を学び、自分で相談を受ける際の態度を身につけることができるように演習を中心に行っていく。また、カウンセリングには様々な場面で応用されるため、応用的な技法も演習していく。 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 自分自身のカウンセリング技術を身につけ、保育現場で実践できるようになる。					
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数 1. カウンセリングの理論 2. カウンセラーの態度 3. 教育相談で必要な考え方 4. 担任による保護者面談の演習 5. 学校における教育相談の演習 6. 教育相談の事例の実際 7. 来談者中心療法の基本的考え方 8. 来談者中心療法によるカウンセリング演習 9. 行動療養の基本的考え方 10. 教育場面と行動療法の展開の演習 11. 開発的カウンセリングの基本 12. 構成的エンカウンターによるカウンセリング演習 13. アサーションによるカウンセリング演習 14. まとめ 15. 試験					
〔使用テキスト・参考文献〕 ・『学校教育相談心理学』北大路書房 その他必要に応じて資料プリントを配布する。			〔単位認定の方法及び基準〕 ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験の修得状況が到達目標の6割以上と認められる場合		

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業のタイトル（科目名） リズム遊び		授業の種類 （ 講義・ 演習 ・ 実習 ）		授業担当者 松本 貴子（実務経験者）	
授業の回数 15 回	時間数（単位数） 15 時間（1 単位）	配当学年・時期 幼稚園教諭専攻・前期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] ・創作ダンスを考え、動きに変化を付けて表現や変化のあるひとまとまりの表現ができるようになる。 ・仲間の表現を認め合いながら、意見を出し合い、協調して一つの作品を創り上げることができるようになる。 [授業全体の内容の概要] ・学生主体による踊る楽しさや喜びを体験し、表現することの可能性を発見すると共に「踊る」「創る」「観る」という活動を通して、指導・実践能力を養う。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ① 創作ダンスを考える発想力を養えるようになる。 ② 企画力を養えるようになる。 ③ 発表会(学園祭)で発表できるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 ① 授業の概要(オリテ) ② 役割・曲決め・衣装決め ③ ビデオ学習 ④ ビデオ学習 ⑤ ビデオ学習 ⑥ ビデオ学習 ⑦ デモンストレーション学習 ⑧ デモンストレーション学習 ⑨ デモンストレーション学習 ⑩ デモンストレーション学習 ⑪ デモンストレーション学習 ⑫ デモンストレーション学習 ⑬ リハーサル学習 ⑭ リハーサル学習 ⑮ リハーサル学習 ⑯ 発表(学園祭) 反転学習として発表時につかう小物等の作成					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・各活動での表現力や行動力等が到達目標の6割以上と認められる場合		